

## 世界の中の日本で創造するニューノーマル社会

村井 純

2000年に本格的に開始した我が国のIT戦略の体制は、最初の10年間の前半、インフラストラクチャを中心にスムーズなスタートを切った。後半の5年は、行政、金融、教育、医療などを領域とした次のフェーズ、「利活用」は遅々として進まないという壁にぶつかった。2010年からはデジタルデータやスマホを前提とした新しい個人の時代となり、オープンデータや「データ利活用」などのデジタルデータを中心に据え、国際的に比較してもキャッチアップの成果があった。そして、2020年、COVID-19の歴史的な経験に基づいてICTをベースにしたニューノーマルの創成が始まる。

## 1. 生活

生活空間の家庭がテレワークやオンライン教育の現場となった。個人宅内での家族の配置、WiFiの特性、集合住宅のインターネット環境、そして、障害や年齢、言語を含むアクセシビリティの観点からの、検証、測定、そして、それらに基づいた「新常態家庭インターネット・ガイドライン」が急務となる。

## 2. 社会

行政サービスの徹底したオンライン化

行政機関におけるテレワークを可能にするすべての環境整備、オープンデータの健康・医療軸での整備。

第一次産業の徹底したICT化

比較的発展している農業に加え、水産業と林業の物流と労働のデータと他産業との合成  
大都市集中から分散化へ

人材、教育、医療、の都市集中による機能不全を解消するICTによる地方戦略  
公共空間のICT環境整備

避難所、テレワーク、イベント、などの持続可能な活動空間であるためのすべての公共空間のインターネット環境の基準作成と整備

文化とイベント空間の感染症耐性整備

音楽、演劇、スポーツ、エンターテインメントなど、人の集う場所におけるICTによるチケット販売や感染トレーシングと連携した耐感染症機能の強化。

## 3. テクノロジー

2000年体制からの光ファイバーインフラや無線インフラの網羅的整備をするための新たな政策の推進。民間主導、官サポートによる社会基盤としてのデータアーキテクチャの推進。海底ケーブルとデータセンターによる日本と世界の安全な関係の構築。

## 4. 地球、世界と日本

地球環境の持続性、人の生命への尊厳、グローバルインターネットへの責任をメッセージとして、倫理、文化、平和、おもてなしの価値観を意識した、国際機関や外交関係を利用した我が国デジタル政策の世界への貢献。